

## 繊維系三学会合併に関する協議会（第5回）議事録

【日時】 2024年8月29日（木） 13:00～16:30

【方法】 ハイブリッド開催

会 場：キャンパスプラザ京都 第8 講習室

オンライン：Zoom

幹事学会：繊維学会

【出席】 ※OL：オンライン

	繊維学会	日本繊維製品消費科学会	日本繊維機械学会
会 長	辻井 敬亘（京都大学）	大矢 勝（横浜国立大学）	田上 秀一（福井大学）
副会長	濱田 仁美（東京家政大学） OL	榎本 雅穂（京都女子大学）	金井 博幸（信州大学） OL
副会長	増田 正人（東レ） OL	小田 直規（東レ）	倉敷 哲生（大阪大学）
副会長	村瀬 浩貴（共立女子大学） OL	森下あおい（滋賀県立大学）	西脇 剛史（アシックス） OL
事務局長	山本 恵美OL	（欠席） 西 良造	高平 恭護
事務局	—	山田 勲（書記担当）	—

WGメンバー（オンラインにてオブザーバー参加）

廣垣和正（福井大）：将来構想WG

竹本由美子（武庫川女子大）：将来構想WG

小野 努（岡山大）：国際化WG

### 【内容】

#### 1. 中間答申に関する意見交換

各WGから、それぞれの中間答申に関して説明いただいた後、意見交換を行った。なお、中間答申は議論の途中経過を含むものであることに留意すること。

また、最終答申に向けて、答申内容の再考やWG間での連携に活用すべく、以下では、主な質疑応答・コメントを中心に記載した。

まず、検討にあたり、以下の点を確認した。

- 本協議会では、「現行3学会の活動をどのように落とし込めるか、成立するか（現会員サービス、リソースの有効活用という観点では重要）」に加えて、「合併した1学会としてどうあるべきか」という観点から、大まかな方針・考え方、体制、課題を検討する。
- WG／協議会答申をたたき台として、各学会で検討し（理事会や会員との意見交換会など）、それらをフィードバックして、一学会として目指すビジョン・ミッションをブラッシュアップしていく（課題にも真摯に向かい合う）。
- WGでどこまで決めないといけないかは難しい問題であり、まずは大まかな道標を提示することになる。合併に向けてGoサインが得られれば、本格的なWGが立ち上がることになると思われる。
- 各学会の良さ、伝統と文化は引き継ぎつつ、それらを有機的に融合させ、あらたなステージを目指していく。

#### (1) 事務局検討 WG

新学会の名称、定款、役員・運営体制、事務局体制、支部体制、委員会組織等の検討状況が報告された。

コメント・質疑

- 運営体制組織図案では国際交流委員会が設けられている。国際交流は企画や広報にも関わるので単独委員会を設けるのがよいのか。あるいは、各委員会に国際的な視点を入れていくのがよいのか。
- 提示した組織図はたたき台であり、各WGで検討した内容を実施するのにどういう組織が必要かを検討いただき、（国際交流委員会に限らず）この案に投げ込んでいただきたい。

## （2）将来構想 WG

新学会のビジョン、ミッション、アクションプランの案が提示された。ビジョンは「日本を代表する新学会として、英知を結集し、更なる学術の発展と学術文化産業のイノベーション促進により未来社会を見据えた価値創造を強力に推進する」こと。ミッションは「学会の魅力度向上」「新分野の開拓」「学術と技術の継承」「会員増強・運営基盤の強化」の4つが掲げられ、それぞれにアクションプラン案が提案された。

### コメント・質疑

- 今後より具体的な学会の魅力について、特に企業理事の立場からはビジネス関連でも具体案を議論していきたい。
  - 新しい枠組みで一体感を醸成していくにはキャッチフレーズが大事だと思う。
  - 各WGで検討されていることがどのミッション・アクションプランに対応するのも念頭に考えてもらえると良い。ぴったり合うものがなければ、項目追加について、将来構想WGリーダーに相談・提案してほしい。
  - アクションプランは大事。具体的なアクション、ロールモデル的なアクションを1つでも2つでも提案することで、一学会になる魅力が具体的に会員に届くのではないか。
  - 一法人になることで「こんな魅力的なことが実際に運営できていくんだよ」みたいところが皆さん一番気になるであろう。
  - セールスポイントとなるような具体案も考えてほしい
- WG内での議論で、例えば、社会実装までの流れが現実的にわかるようにして、ビジネス分野と関連する研究分野を融合しながら、この学会では、こういう新しいことができる、こういう出会いがあって、こういうことが生まれるし、常に変わっていて新しいアイデアがあるという組織あるいは機会であることがわかるようにと考えている。
- よりわかりやすく伝えるために、前回検討の繊維イノベーションエコシステムなどのポンチ絵をブラッシュアップしていく。
- 全体像を示しつつロールモデルを検討。タイムスパンも違うはずなので、それも加味した提案も必要。合併せずとも個別に目指すべきミッションの場合、合併したからこそ具体的にこう達成できるんだというシナリオが示せばよりよいのではないか。
  - あるWGから別のWGへの提案や相談もよいのではないか。
- 将来構想WGとしては是非いろいろと投げ込んでいただきたい。国際などは特に重要と考える。

## （3）学会誌検討 WG

新学会誌の編集方針や体制について報告された。新学会誌は、川上から川下までの幅広い会員の関心に対応できる内容を目指す方針。電子化については、独自システムを構築するか、J-Stageのみを利用するかなども検討中であり、また、広告収入の確保や雑誌購入者への対応も課題とされた。

### コメント・質疑

- 「この雑誌を読みたいから会員になっている」というような紙面づくりを目指したい。
  - 合併を決議していないのに組織を立ち上げるのは難しい。決議の後に速やかにスタートできる準備を進めておくくらいか。
  - 学会を知らない人へもアプローチできる学会誌を目指していきたい。
  - 会誌発行は合併後直ち（同月）が必須か？準備の都合で遅らせる選択肢はいかがか。
- お祝いの号（第1号）はタイミングを外せない。また、第1号で盛り上げた期待感を継続するには、その後の企画が大事。各会員の興味ある内容がうまくちりばめられている工夫も必要。そのために準備に1年近くかかるのではないか。
- 合併することになれば、現行の各学会誌の最終号（特別企画）の準備も重要。
  - 原稿依頼・収集も課題。原稿作成にあたり編集委員の支援（査読と手直し）がどれくらい可能か、また、必要か。編集委員会が動き出した後の実際の課題かと思われる。
  - 電子化にあたり、J-Stageのみならず目次やアブストなどはHPで見られるのがよい。
  - メーリングリストやSNSを通してJ-Stageにアクセスしやすくすることも必要。メール案内の際に広告を組み込み、広告料を徴収することもありか。
  - 新しい学会誌として、新しいコンセプトをしっかりと設定できるとよりよいのではないか（専門外への情報発信、次世代ジュニア世代向けなど）
- 会員外へのアプローチにも電子化は有用（電子翻訳を使えば海外展開も）。クローズド期間をどのくらいに設定するのが妥当なのかの検討も必要。会員を呼び込む、アクションプランに繋がるアピールポイントも考えていきたい。

#### （4）論文誌検討 WG

新学会としての学術誌のあり方・体制、位置づけ、編集方針などについての検討状況が報告された。

##### コメント・質疑

- JFSTコンセプトやカテゴライズ問題にも関連し、繊維機械分野が十分にカバーされてない？JTEがなくなるとこの関連の論文がでなくなる？などの懸念なども含めて検討いただきたい。歴史的蓄積（多年にわたって継続している雑誌もあまりない）を重視する意見もある。
- 今後最終答申が出た際に、会員から同様な意見が出るのが予想されるため、今回の議論も元に、論文誌のあり方や対応等を協議会としても検討しておく必要がある。特に、二誌の場合はそれぞれの位置付けが重要。例えば、JIPを上げ、繊維を代表するグローバルジャーナルを目指すものと、取りこぼしなく裾野を広げてJIPが高くなるとも自らの業績を発表していくジャーナル（英文でも投稿できる）も必要ではないか。
- 技術的論文を英文で出す際に、JFST以外の選択肢も必要ではないか（企業研究者からの投稿などを想定）
- JSFTを英文論文のみ、もう一つのジャーナルを基本和文ながら、ある分野だけ英語論文の投稿を認めるという別扱いではなく、それぞれの雑誌全体の方針を決めて、二誌のコンセプトをうまく設定することで対応できないか。例えば、社会実装技術という観点。一方、日本語で学術論文を投稿したいという希望もあるかもしれない。
- 各学会の論文誌は長い歴史を有するので、それを活かしつつ世界にアピールできるジャーナルを目指してほしい。是非、投稿したいと思えるようなジャーナル、また、その策なども検討いただきたい。

- アーカイブを整備して貴重は蓄積を有効活用できる体制も検討いただきたい。

## (5) 年次大会検討 WG

合併した際に年次大会・秋季研究発表会を実際に開催できるかについて、開催日程、開催場所・会場、予算等の観点を含めて具体的に検討を進めている。

### コメント・質疑

- 参加者想定770名は非現実的ではなく十分目指せる数であり、事業規模1000万円は妥当な線と考える。
  - 参加費はどこの学会も参加費値上がり傾向。収支としては、どれくらい参加者が集まるかが重要。
  - 合併して融合を図っていくために発表分野を見直していただいているのはよい。新学会の年次大会として注力する観点や企画があってもよいのではないか。例えば、産学連携。企業の方に参加いただきたい（現状でも日本繊維製品消費科学会などでは企業参加も多数であり、その活動を加速する工夫はできないか）。
  - 運営の効率化（事業経費の節約）を図れないか。例えば、2019年度の3学会年次大会経費の合計より、合併した場合の想定経費がそれほど下がっていないように思える。
- 会場費が占める割合が大きい。どこまでできるかわからないが削減・効率化を更に検討する。
- 経費抑制のために大学開催の余地はどうか。
- 6月は難しく、可能性があるのは9月あるいは3月。ただ、秋季研究発表会や夏季セミナーとの兼ね合い等を加味して検討しなければならない。9月あるいは3月は難しいかも。
  - 経費シミュレーションに関して、財務WGとも連携させていただきたい。
  - 6月土日での大学開催はどうか

→ 大学による。企業からの参加がどうか。
  - 企業との連携はどうか。企業の方々が年次大会とどう関わっているか。

→ 企業でも、実際に参加した人は（行かされた人も）好印象を持っている。いかに参加してもらうかが鍵。一方、費用対効果を考えると、土日が高いお金を払って年次大会に人を出すより、直接大学にアプローチしたほうがよいという風潮？も。ということで、新学会としては第1回目の年次大会が非常に重要。企業からも多くの人を出してもらい、さらに、よい印象・成果を持ち帰ってもらって、その後に続けることが重要（合併により変革をアピールするチャンス、それに見合う企画が必要）。

→ 企業から参加させたいような取り組みが重要。魅力を感じるポイントとして、例えば、何か発見があること。セッションを大括りにして自分の専門以外の発表も聞いて、そこから共同研究に繋がるなど。周りで成功事例があれば参加希望者も増え、好循環となっていくのではないか。
  - 将来構想とも関連して、年次大会に参加した際に、様々なディスカッション、出合いができる場であってほしい。将来構想WGとも連携して検討いただきたい。また、第1回目は是非とも大々的に実施すべき。
  - やはり第1回目が重要。ビジョン・ミッションとも連動して、新しい学会としてこういうテーマに注力するというメッセージの発信も。年次大会だけでなく、学会誌、研究会の活動も含めて、新学会のフラッグシップを設定し、学会内外、分野内外に発信。現行の3学会メンバーだけでなく、外の人にもアプローチして、賛同者（会員）を増やしてスタートを切れるような工夫が検討できればと考える。

- この学会に来たら、これがある！というのが理想。

## (6) 催事・研究（委員）会検討 WG

名称は「研究会」とし、運営形態は3つのパターン、研究会の統廃合の手順として3つのステップが提示された。また、企画委員会に関しては、2つの分科会を設置し、下位のWGまでは規定せず現状の企画をリストアップ、いくつか例示するにとどめ、自由度・柔軟性のある形での提案としたこと、会計処理は本部事務局が担当する案が提案された。最後に、夏季セミナーについても検討中である。

### コメント・質疑

- オープンとクローズドの研究会についての議論はどうか。両者では活動内容も自ずと異なると考えられる。「新研究会発足時はクローズドがよい（自由に発言・意見交換ができる）」、「独立採算ならクローズドでも」、「学会から支援金をもらっていればオープンであるべき」、「企業の方はクローズドだと話やすい面もあるか」など、いろいろな視点があるかと思われる。今後、検討いただきたい。
- クローズドの研究会は、新学会として一定数あることはよいのではないか。特に企業研究者も巻き込んで、オープンでは話せないことを一方踏み込んで連携が図れるようなことになればよい。ただ、クローズドといえども、企業の方は踏み込んだ話はしにくい現状かも。
- 新分野開拓などはトップダウン的にテーマを決めて先導するのもよいのではないか。
- 新しい学会として、今の活動をうまく組み込んで発展させるだけでなく、新しいスタイルやチャレンジを試みるというメッセージも伝わるとよいのではないか。

## (7) 国際化 WG

8/30にWG開催予定であり、今回の報告等はスキップとなった。

## (8) 財務検討 WG

会員数（重複を省いて1,390名）、会費設定（正会員、学生会費、維持会員と賛助会員の区別をなくす）、人件費、固定費などを基本データに基づいて想定しつつシミュレーションを行い、ベストケースからワーストケースまでを検討した。検討できていない項目に関しては該当WGからの情報を待って追加、その他、広告、法人会員の扱いなども含めて精度を高めるべく再検討の予定（WGでの取り組みによっては費目・経費などの見直しも必要）。

### コメント・質疑

- 企業で資金を捻出する状況はいろいろ。厳しい状況でも支払える工夫があればありがたい。
  - パッケージ化、年初払いは対応しやすい、学会としても計画を立てやすいということもある。ただ、オプション設定として柔軟性を持たせたほうがよいと思われる。
  - 会員の重複に関して名簿を付き合わせて精査するのかどうかは今後の検討（事務局等の手間が大きい）。
  - 現状のシミュレーションでは、諸事情で現状加味されていない、研究会・支部の活性化、事務局の効率化のためのシステム導入、国際化の取り組み、新学会としての新たな取り組みなどを実施する余裕が十分に見えてこないのが大きな課題ではないか。ビジョン・ミッションで素晴らしいフラッグシップを掲げても、それを財政的に実現できるのか。更なる工夫が必要ではないか。
- 固定費をどこまで減らせるかが一つのポイント。ただ、人件費も含めて、黒字着地に持っていけるかは今後の課題。健全な財務を組み立てるには会費収入すなわち会員数を増やすが正当。賛助会員・口数も見直す必要あり。そのためにもビジョン・ミッションとして魅力ある学会をしっかりとアピールしてい

なければならない。

- 催事による収益は期待されるが、できれば、これはプラスアルファと考え、これを余裕として新しい取り組みを積極的に実施できるよう、基盤的な財政を構築できるとよい。
  - 人件費の比率が高いのはどうか。効率化を図りつつも、積極的にエフォートをつぎ込んでいく必要性など、現行人員・体制を有効活用できるかどうか、具体的なシナリオを含めて検討するのも一案ではないか。
  - 経費削減があまりに過大制約にならないように検討すべき。事務効率化のために投資し、それにより切り出された事務局エフォートで新規事業の実施や学会運営に協力いただいている教員等の負担を軽減することも必要（赤字体質ではなく収支バランスが成立していることが前提ながら）。
  - 固定費については事務局検討WGと連携して精査いただきたい。
- 承知した。会員数の見積もりや会費も見積もりも含めて精度を上げていく。人件費が嵩むのは、学会の場合に事務局負担が大きいいためか。ちなみに、現状の3学会では事務局のカバーする範囲がかなり違う。この点でも、新学会の事務局のあり方について検討・見直しは必要と考える。
- 学会誌関連の経費に関して、電子化した場合の想定も含め、再検討する。学会誌の広告収入に関して、すべてが賛助会員だけではないので、それらを加味する必要がある。
- エクストラの広告費は、学会誌のほか、研究会、催事等でも想定される。今後、各WGとも相談しながら加味していく。
- 法人関係の会費・広告料という観点で、3学会合計から減るのは当然ながらも、現状シミュレーションではかなり少ない見積もりとなっている。口数を含めて、再検討が必要。
- 会費対会費はそこそこの精度ながら、広告分については今後の精査が必要。
  - 「新しい学会としてこれだけのことをやるのでそれに必要な経費を何とか捻出する」、「想定収入・予算がこれくらいなので、その範囲でできることを検討する」、これらは両極端でありながらも、両面あるいは課題毎で調整しながら落としどころを探っていく必要があるのではないか。
  - 法人会員費に関しては、新しい学会を強くして協働していくためにこれだけの費用が必要というリーズナブルな理由があれば、企業としても検討の余地はあると思う。という意味で、現状シミュレーションより上積み可能と考える（上限数値が一人歩きしてしまうことを懸念する）。

## (9) HP 検討 WG

今後立ち上げて、議論を開始予定。

## 2. WG答申等の取り扱いと今後の対応

- 早い段階で各学会でいろいろな意見を伺い、それも含めてブラッシュアップしていく。現状の中間答申では、会員公聴会までは難しく、まずは理事会ベースでの検討がよい。また、課題がしっかり挙がっているのはよい。
- WG答申を理事会に出して良いか？→催事に関する広告費を切り出して検討できていないことなどもあり、財務シミュレーション結果は適当ではないのではないかと改訂版を検討することとなった。
- 本日の議論を理事会に持ち帰って検討する。その後、各学会のWGメンバーを通して各WGにフィードバックする。
- 国際化WGとすれば、今日のディスカッションの中でも、例えば学会誌WGでHTML化の話とかがあって、こちらの学会誌学会の情報を海外の方に知っていただくことも非常に重要であり、一方、連携を組むであろう海外の学会の情報を学会誌の方に載せていくことも当然必要になってくると思う。国際とし

て何が具体的に必要なのかを含め、WGリーダーが知る機会（協議会へのオブザーバー参加）は非常に重要だと思う→リーダーのみならずWGメンバーの参加は了解済み。

### **3. その他**

オブザーバー参加のWG委員よりコメントをいただいた。

- 廣垣先生（福井大）：将来構想WGメンバー

各WGで決めていただかなければならないことや、将来構想に沿って各WGで検討いただかなければならないことがあり、全体の議論に参加させていただいたことはよい機会となった。

- 竹本先生（武庫川女子大）：将来構想WGメンバー

全体をわかった上で将来構想を考えていかなければいけないことを確認する機会となった。新しい学会としての魅力みたいところをこちらから提案したほうがよいことも理解できた。各WGからも出していただきつつ将来的な観点でロールモデルを提示してほしいという意見もいただいた。繊維の開発から社会実装までなど、他の方も想像ができる提案ができたらと思っている。

- 小野先生（岡山大）：国際化WGメンバー

全体の議論を聞かせてもらえてよかった。三学会が統合することによってどういう魅力を出すか、ここでの議論というのが重要だと聞かせてもらった。細かいところは各WGで詰めていくところかなと思うが、やはり国際化でもどういう方針かという全体的なものがないと活動しにくいので、ここでの議論はありがたい。

最近、他の学会でビジョンを作成したが、その際にビジョンとミッションが逆転していた。MVVというように、ミッションが一番上にあって、それに対するビジョンというような考え方だった（いろいろな出し方があるのかも）。企業の方もいらっしゃるの、皆さんにとって一番分かり易いものを設定するのがよいかと。

全体的にはオブザーバーとして参加させていただいて、大変為になったと思っている。

### **4. 今後の予定**

協議会の今後の予定：各WGからの最終答申を受けて開催することになるが、本日のフィードバックもあるので、可能であればその間にもう1回の開催を検討する。